



# 鹿骨東小学校



鹿骨東小学校公式ホームページ <http://edogawa.schoolweb.ne.jp/shishibonehigashi-e/>

## 本当の「自己肯定感」とは

校長 鈴木 衣里

6月20日(土)学校公開では、たくさんの地域・保護者の皆様方にご参観いただき、誠にありがとうございました。事後の保護者アンケートでは、「お子さんが生き生きと活動している。」92%、「ルールやマナーを守って学習している。」95%、「授業は分かりやすい。」95%と、肯定的な回答をいただきました。「この1年で大きく成長した子供たちの姿に感動しました。」「子供たちの頑張っている姿を見て嬉しく思いました。」等のご感想も励みになります。改善点も含めて今後の教育活動に生かしてまいります。

さて、子育てや教育の場で「自己肯定感」という言葉をよく耳にします。「ありのままの自分を認める」とことはもちろん大切ですが、一方で「今のままでいいなら、努力しなくてもいいの?」と、子供の向上心や粘り強さが育たないことに不安を感じることはありませんか。

本当の意味で「自己肯定感が高い」とは、自分の失敗や人からのアドバイスを素直に受け止め、「よし、次はこう改善しよう。」と思えることだと考えます。「自分には価値がある。」という絶対的な安心感、心の土台があるからこそ、課題に直面しても心が折れず、自分を高めるエネルギーに変えられるのです。逆に、この土台が不安定だと、注意されたときに過剰に落ち込んだり、言い訳をして自分を守ろうとしてしまいます。

本校では、この「しなやかで強い自己肯定感」を育てるために、主に2つのことを心掛けています。

### ① 結果ではなく、プロセス(行動や変化)を具体的に褒める。

「昨日よりここができるようになったね。」「間違えた問題を解きなおしたんだね。」のように、子供の行動の変容や努力の過程を見逃さず、認めることを心掛けています。

### ② 失敗や間違いを「成長のチャンス」として生かす。

テストの間違いは「ダメな証拠」ではなく、「伸びしろ(改善のための貴重な資料)」と捉え、「どこでつまづいたかな。」「次はどうすれば上手いきそう?」のように、次の工夫へ向かえるよう声を掛けています。

ご家庭でも、「次はどんな作戦で行く?」など、失敗を成長のチャンスに変える会話を楽しんでみてはいかがでしょうか。安心感に守られた子供たちは、自ら一步を踏み出し、しなやかに伸びていきます。

\* \* \* \* \*

運動会保護者アンケートで、改善要望の多かったものについて紹介します。【数値は全家庭数での割合】

- 学年優先エリアの場所や広さ、最前列しゃがむか椅子設置等の配慮がほしかった。 7%
- リレー(選抜または学年全員)を見たかった。(盛り上がり、足が速い子の活躍の場) 4%
- 短距離走の着順判定をしてほしかった。(子供の意欲、1位の子の達成感) 3.4%
- 着順判定なしが良かった。(時間短縮、着順なくても一生懸命走っていた) 1.2%

ご意見ありがとうございました。来年度に向けて、運動会委員会を中心に検討してまいります。